

ツルガ薬局 漢方症例 《 3～4 歳男の子 足が伸びなくなる 》

「急に足がこわばり伸びなくなった、歩き方もおかしくなった」



3～4 歳ほどのお孫さん(男の子)を連れて来店。
お孫さんを預かっている時に、お孫さんがインフルエンザにかかってしまい、病院へ受診し、タミフルと解熱剤が処方された。

薬を服用し、熱は下がったのだが、足がこわばったように、伸びなくなった。歩き方も、足が曲がったままの歩き方で来店された。(写真のような歩き方)

【考察】

漢方の教科書である「傷寒論(しょうかんろん)」に、身体が弱っているのに、無理になるような攻め方をした(この場合、お孫さんの体の状態に適した治療ではなかった)為に、陽気(体を温めて元気にする気)を亡(ほろ)ぼし、手足が冷たくなったり、咽中が渇いたり、もだえ苦しんだり、吐いたり、そして「脚攣急(あしれんきゅう)」、「脛拘急(けいこうきゅう)」の症状が出ることもあり、そしてそれをどうやって治していくべきかも書いてあります。

脚攣急や脛拘急とは、足がつるとか、痙攣(けいれん)する、こわばる、ひきつる、伸びない、つまり今回のお孫さんの状態と一致します。

【経過・結果】

条文どおりに、まずその亡ぼした陽気を復(ふく)する、つまり回復させる「陽復湯(ようふくとう)」を店頭で1包飲んで頂きました。

■10 分後

脚が伸びるようになり、子供ももう大丈夫とケロッと元気になる。

そのまま帰宅。病院に行っていたら、どういう治療をされていたか…、ここに来てよかった、と言って頂きました。

漢方の専門相談は、ツルガ薬局の漢方専門相談スタッフまでお気軽にどうぞ♪